

釧路新聞に白杉先生の記事が掲載されました。

健康

Health Up

むくみの慢性化に警戒

うつ滞性皮膚炎患者に生じる皮膚の色素沈着



色素沈着が進むと、やがて潰瘍に

(提供:白杉望医師)

うつ滞性皮膚炎

弾性ストッキングで予防

血管には、酸素や栄養分を運ぶ動脈と、老廃物を運び出して心臓に戻す静脈がある。一足歩行の人間の場合、心臓は脚よりも高い位置にあるため、血液は重力に大きく逆らって心臓に戻ることになる。立ち仕事などを長期間行うと、脚の静脈内に余分な血液がたまって循環障害を起こし、うつ滞性皮膚炎を生じることがある。横浜旭中央総合病院(横浜市)下肢静脈瘤(りゅう)センター(血管外科)の白杉望センター長は「うつ滞性皮膚炎は、口頃から弾性ストッキングでの予防が大切です」と話す。

■かゆみや湿疹、黒ずみ 静脈内に余分な血液がたまる状態をうつ血という。健康な人でも一日中歩いたり立ちっ放しだったりするとうつ血のために脚がむくむことがある。うつ血が慢性化して静脈内の圧力が高い状態(静脈高血圧)が続くと、血管がこぶ状にポコポコと浮き出る下肢静脈瘤が起る。うつ滞性皮膚炎は、こつした下肢静脈瘤に

■治療は圧迫と手術 うつ滞性皮膚炎の治療は圧迫療法から開始する。「静脈内に余分な血液がたまらないよう、医療用弾性ストッキングを履いたり、潰瘍の場合は弾性包帯を巻いたりして皮膚を圧迫し、うつ血を取り除きます」と白杉センター長。1次性の場合

は、皮膚症状の治癒後に血管内焼灼術などの手術で静脈瘤を根治させる。2次性の場合には元の病気の治療も併せて行う。 うつ滞性皮膚炎は重症化する。皮膚を元の状態に戻すことが難しくなる。白杉センター長は「静脈瘤は超音波検査で診断できます。痛みやX線検査による被ばくもないので、うつ滞性皮膚炎になる前に血管外科を受診してください。また、普段から医療用弾性ストッキングを着用すると、静脈瘤を予防できます」と話す。医療用弾性ストッキングは医療機関でのみ購入可能だ。普段から立ち仕事が多く脚のむくみが気になる人は、一度医師の指導を仰ぎたい。(メディアカルトリビューン時事)

◇ ◇

横浜旭中央総合病院の所在地は、〒244-1080 1 横浜市旭区若葉台4の20の1 電話045(921)6111。